

# 都市における感染症への適応を考えるPBL ウィズ・コロナのニューノーマルの提案

| 実施期間                        | 実施国 | 共同実施機関   | 対象   | 参加者   | 本学担当教員   |
|-----------------------------|-----|----------|--|---|--|
| 2020年10月03日<br>~2020年10月31日 | 日本  | スラバヤ工科大学 | 環境システム学科<br>機能制御システム専攻<br>域環境システム専攻<br>国際理工学専攻<br>・学部2年生<br>・学部3年生<br>・学部4年生 | (芝浦工業大学)<br>学生17名、TA4名、教員3名<br>(スラバヤ工科大学)<br>学生21名、教員10名、職員1名 | 中村 仁(環境システム学科)<br>増田 幸宏(環境システム学科)<br>鈴木 俊治(環境システム学科) |



Description: let the air circulation run naturally (rapid test booth), recommended to take tests on hospitals

図1 PCR検査ブースの提案: 鉄道駅

スラバヤ工科大学 (ITS) の都市・地域計画学科と本学 (SIT) の環境システム学科により、オンラインでグローバルPBLを実施した。PBLのテーマは、「感染症への都市の適応を考えるPBL: ウィズ・コロナのニューノーマルの提案」である。Zoomを用いたオンラインでの会合を、2020年10月の毎週土曜日、午前9時30分から13時まで、計5回開催した。参加学生をITSとSIT学生が混成する10グループに分け、スラバヤ市の空港、鉄道駅、バスターミナル、低密度住宅地、高密度住宅地を、それぞれ2グループが事例対象として、COVID-19対策の現状分析、課題の把握、ニューノーマルに対応した空間デザインや運営上の仕組みなどの提案を行った。



図2 事例対象: 空港

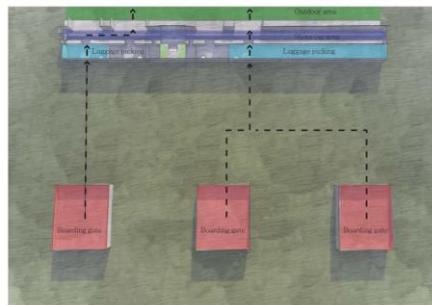


図3 動線計画: 空港

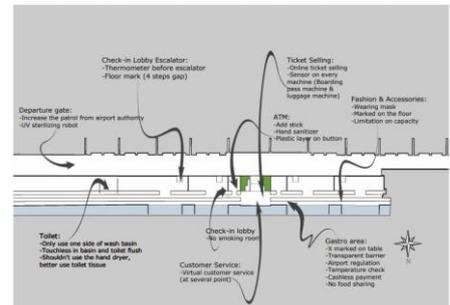


図4 ニューノーマル提案: 空港

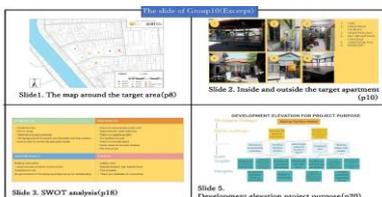


図5 現状分析: 高密度住宅地



図6 ニューノーマル提案: 集合住宅

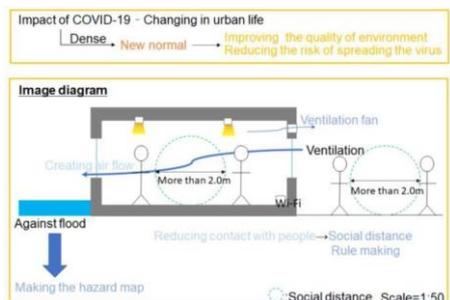


図7 換気計画: 集合住宅